

【国語・中2・「魅力的な提案をしよう」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。 (1)ア
- (思、判、表等) ・自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。 AI
- ・資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 AU
- (学びに向かう力等) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

思いや考えを分かりやすく伝えるためのプレゼンテーションソフトの活用

学習の見通しをもち、必要な情報を集める。

集めた情報を整理し、進行案を作成する。

資料を作成し、プレゼンテーションを行う。

学習を振り返り、互いに評価し合う。

事例の概要

プレゼンテーションソフトを用いて資料を作成し、グループごとにプレゼンテーションを行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

提案内容が視覚的に分かりやすくなるように、プレゼンテーションソフトを用いて資料を作成する。

【事例におけるICT活用の場面②】

振り返りの際に活用できるように、発表の様子をICT端末で撮影しておく。

【国語・中2「魅力的な提案をしよう」②】

【事例におけるICT活用場面①】

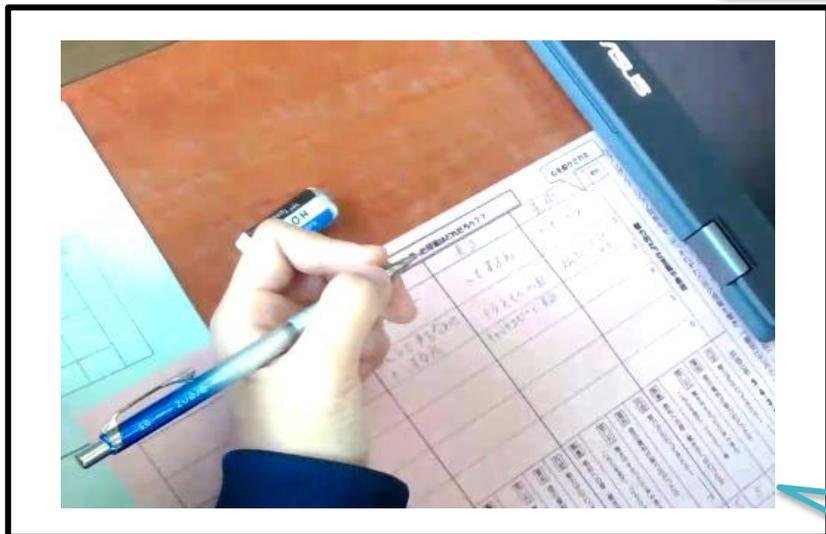


本単元では、各教科の魅力提案するというテーマに設定し、資料を作成しプレゼンテーションをする場面において、プレゼンテーションソフトを活用した。提示資料作成の際はグループ内で作業を分担し、互いの取組状況を確認しながら作業を進めることができた。また、プレゼンテーションソフトを活用したことは、資料作成の作業時間短縮にもつながった。

プレゼンテーションをする場面では、大型モニターで資料を示しながら発表することで、視覚的に分かりやすく伝えることができた。また、簡単な操作で資料を示すことができるため、自分たちの考えを伝えることに集中でき、聞き手を意識した話し方を工夫することができた。

資料作成にかかる時間を短縮でき、分かりやすく伝えるための話の構成や表現の工夫について、話し合ったり練習したりする時間を十分に確保できる。

【事例におけるICT活用場面②】



プレゼンテーションを行う活動では、その発表の様子を教師用のICT端末で録画しておいた。そして、単元のまとめの場面において、各自のICT端末でその動画を見返す場を設けたことにより、生徒は教師の示した視点に沿ってプレゼンテーションを振り返り、自他のプレゼンテーションのよさに気付くことができた。

また、その動画は、授業後に教師が「記録に残す評価」を行う際にも活用することができた。

まとめの場面では、録画しておいたものを各自のICT端末で見ながら、自分の班の発表や他の班の発表を振り返ることができる。